

平成26年度全国保健師長会北海道支部研修会開催報告

北海道支部では、12月13日、札幌市において、保健師活動指針の中でもその重要性が示されている『地区担当制の推進』をテーマに、支部研修会を開催しました。当日は、会員、非会員あわせ全道から45名の出席がありました。

研修会冒頭は、11月22日に岩手県で開催された代議員総会の報告を行い、地域保健を巡る国の動向や災害対策における公衆衛生活動について情報を共有し、また全国保健師長会活動の理解を図りました。

その後、今年度の研修テーマである「地区担当制の推進」について、実践報告、講演、意見交換を行いました。

はじめに、石狩市の鈴木美佳主幹から『地区担当制の取り組み』について実践報告があり、「制度改正・新規



研修会の様子

事業、市町村合併の中で業務分担が加速し、業務をこなしながらも次第に地域との繋がりが減少。平成20年度の新人保健師採用を契機に、地区担当を意識した個別支援体制、新人保健師現任教育実施要領の作成などの基盤整備や町内会との協働事業に主査職・中堅・新任期が一緒に取り組み住民とのやりとりや声を事業化するプロセスを体験。また、地区担当リーダーを配置し、困難事例などの対応や地区活動の検討会、打合せなど実践活動をチームで共有。それと平行して、リーダー保健師も全国規模の研修に参加し、保健師の専門性、地区活動の意義、保健師管理者の役割について認識を深め活動に反映させた。その結果、一人で抱えていた仕事がチーム・組織で支え合い安心感や学びが多いとの声が聴かれ、「市の健康課題は保健師全体で話し合った方が良い、受け持ち地区を健康にしたい」との声も聞かれるようになってきた。今後は分散配置職場との情報交換や事業検討会等に取り組み、住民の生活や声が汲み取れる保健活動ができる力量をつけ、配置先が違っても保健活動の目指す方向が一致したぶれない保健活動を展開していきたい」と実践報告がありました。

次に、日本赤十字北海道看護大学の近藤明代准教授より『地区活動を推進する力をどう育てるか』について御講演頂きました。何故、今、地区活動が課題なのか？地区とは？地区活動とは？生活・生活者とは？保健師の専門性とは？公衆衛生とは？など基本的な考え方について事例を通して説明され、保健師は、住民の人生に関わることが特徴で、その人生・暮らしは地域（風土や文化など）や社会の中で展開されるものであることから、地域を理解することや地区活動を行うことに意味があり、地区に責任を持つ「地区担当制」を基盤とすることが重要であること等が話され、積極的に住民の組織活動に関わり地域の人々・機関と共に地域づくりを行うようエールを送って下さいました。また、地区活動の力量を形成する人材育成は「はじめは事例から」で、対象者に接して感じた率直な想いや課題、可能性などを素直に語ることにできる場を作ること（事例検討会）、そこでベテラン保健師から経験を語ってもらったり、意図的な問いかけにより健康課題と暮らし、地域の特徴を結びつけて考えられるようになってきたり、褒められたり支持されたりポジティブ経験の積み重ねが大切であることなど幅広くそして奥深いお話し頂きました。

参加者からは、「市町村にも保健所にも同じ悩みがあること」など現状・課題の再認識の声や「保健師活動の一つ一つ意味付けすることができた」「丁寧に積み重ねていくことが大事」「研修内容を職場で共有し考えたい」などの意見・感想が寄せられ、それぞれの職場で明日からの保健活動に活かされる研修となりました。（記：北海道支部長 大岩 敦子）